

釧路市地域防災計画と ハザードマップについて

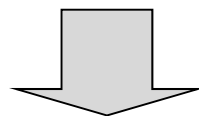
釧路市総務部総務課

防災危機管理主幹 佐々木信裕

地域防災計画を取り巻く状況

□東日本大震災の反省点として

- ・ 災害の経験や教訓が社会に蓄積されてこなかった
- ・ 土地利用や都市計画に災害危険度の観点が盛り込まれることは、ほとんど無かった



□災害時の被害を最小化するための「減災」の視点が重要となってきた

- ・ 北海道地域防災計画に減災の視点が新たに盛り込まれた
- ・ 釧路市も減災の視点を取り入れ、地域防災計画の見直し作業を進めている

「防災」と「減災」の違いは何か

「防災」: 被害を出さない取り組み

「減災」: あらかじめ被害発生を想定したうえで被害を
低減させていく取り組み

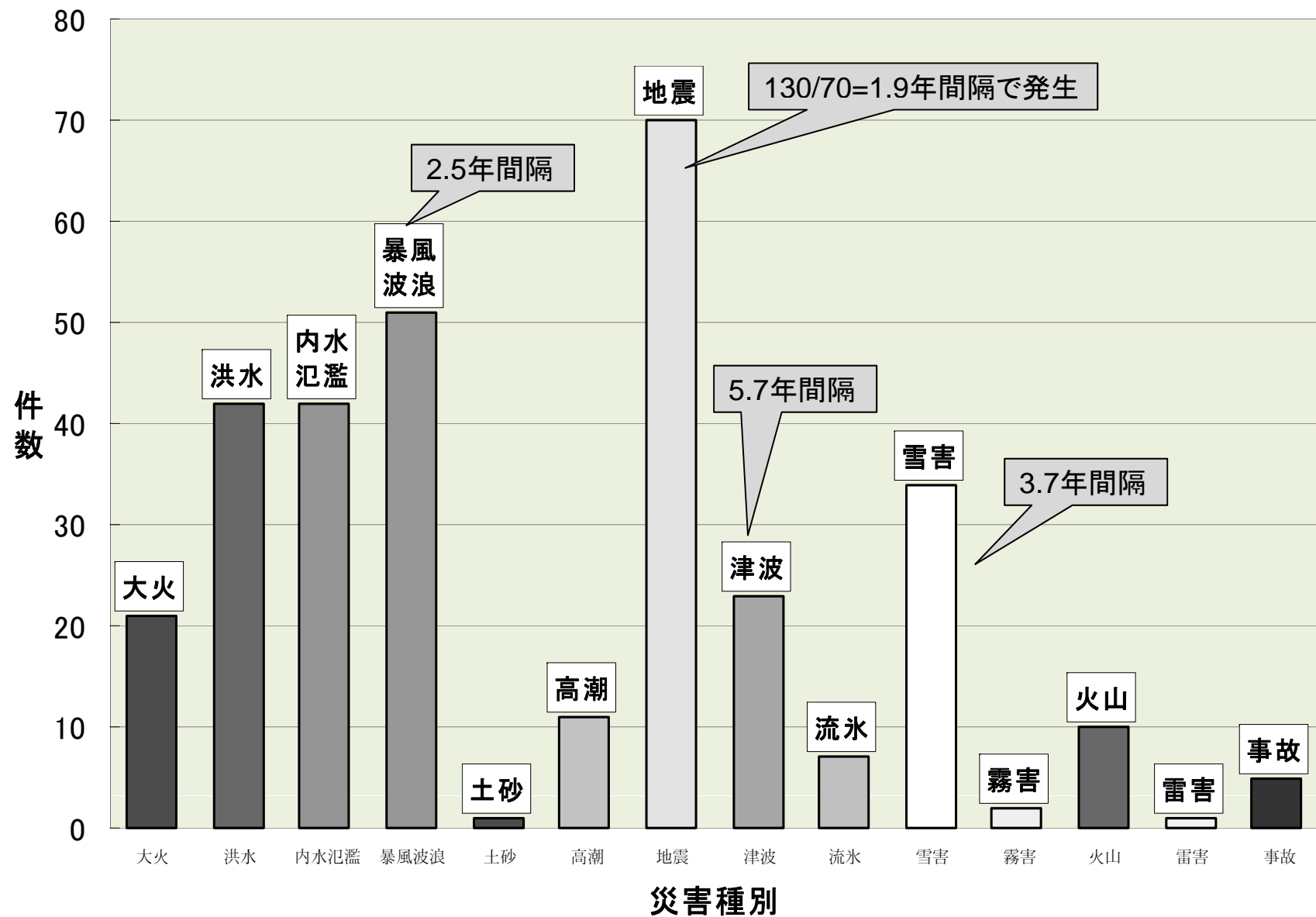
★「減災」の取り組みを長期に持続させていくには、
動機付けが極めて重要

- ・ 防災のまちづくり等の総合的な対策を実施
- ・ 防災教育の充実や防災訓練の実施
- ・ ハザードマップを通じて地域の災害特性や災害 リスクを住民に周知し、避難意識を高く保つ

釧路市の過去の災害記録

- 釧路市の災害の記録が文献に登場してくるのは、明治8年(1875)から
- 被害記録が残っている災害は、この130年間に300件以上発生
- 火山噴出物や津波堆積物の調査研究により、過去数千年間の火山噴火や津波の歴史も知ることができるようになってきた

災害種別ごとの発生頻度 (過去130年間)



釧路市の災害の地域特性

過去130年間に発生した災害(被害記録あり)の出現割合

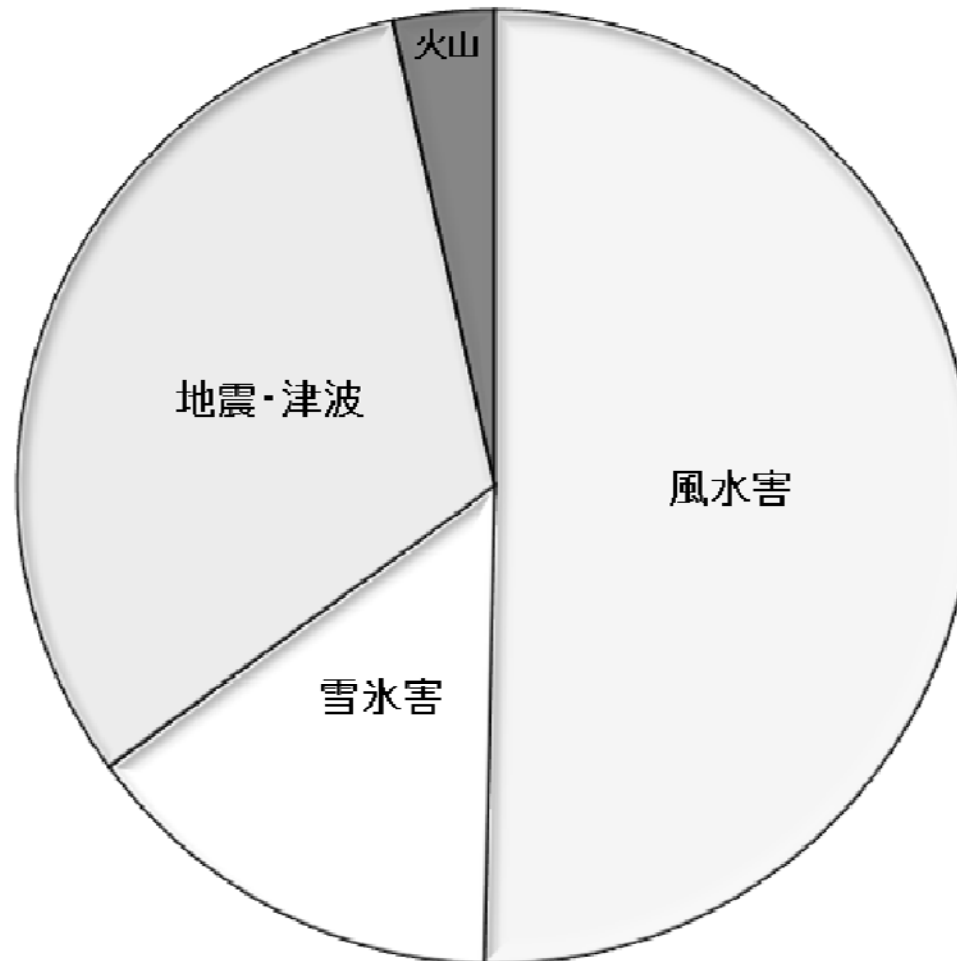
4種類の災害に
注意が必要

◎気象災害

- ・風水害
- ・雪氷害

◎自然災害

- ・地震・津波
- ・火山噴火



釧路市発行のハザードマップ

□ 釧路市では地域の災害特性に対応した、5種類のハザードマップ作成している。

1 500年間隔地震津波ハザードマップ

(特長:数十年間隔の普通津波と500年間隔の大津波を表示)

2 釧路川洪水ハザードマップ

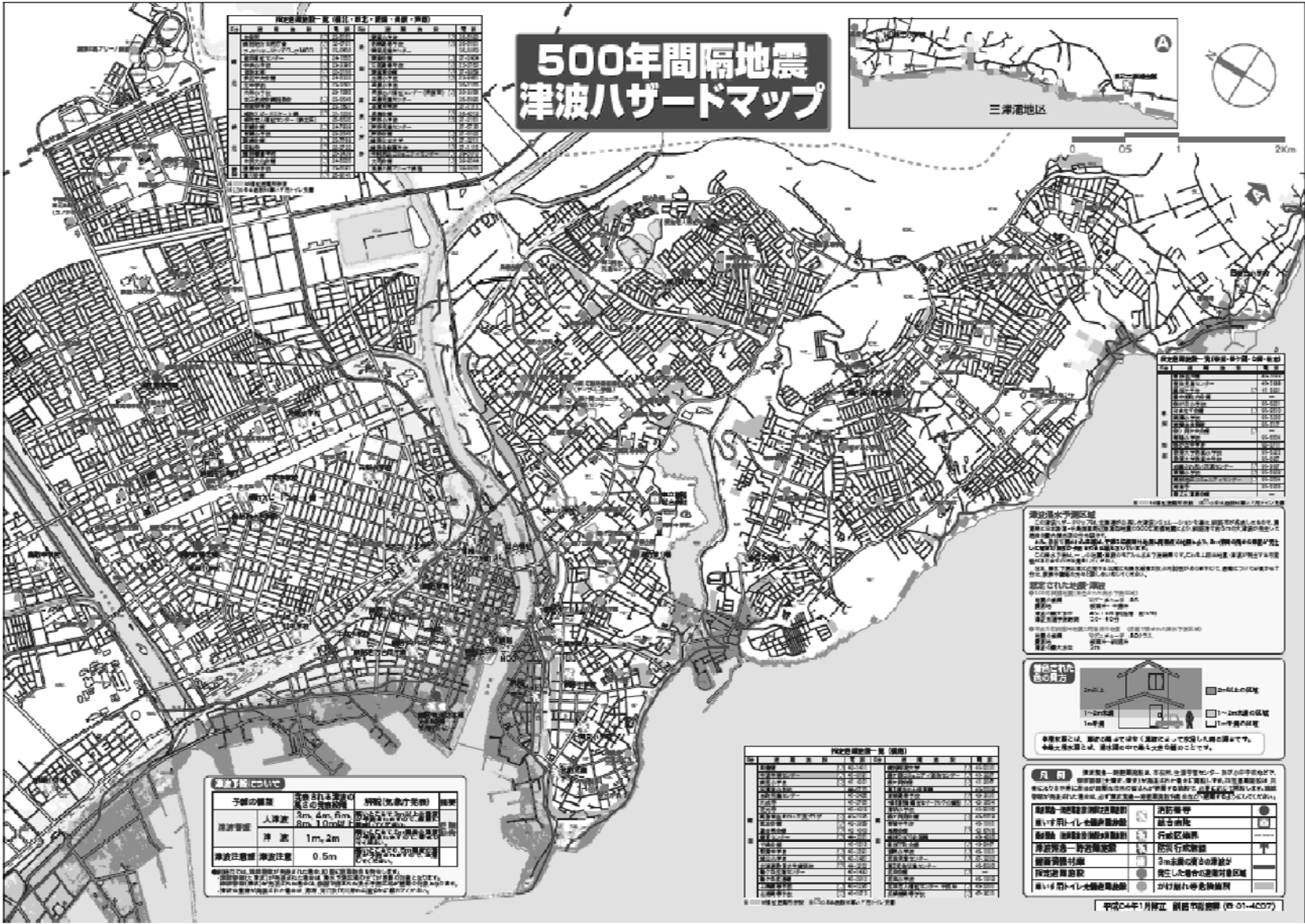
3 地震災害ハザードマップ

4 雌阿寒岳ハザードマップ

(特長:数十年間隔の小噴火と数千年間隔の大噴火を表示)

5 土砂災害ハザードマップ

津波ハザードマップ



津波ハザードマップ(部分拡大)

- 赤太線の内側が高さ3mの津波の浸水範囲
- 採色範囲が高さ5m(500年間隔地震津波)の津波の浸水範囲と浸水深
- 24時間対応の津波避難施設も表示

